

表1. ブータンの植生の垂直分布(大沢, 1986)

標高(m)	気 候 帯	優 占 種
150	tropical	Pterospermum, Terminalia, Tetramels, Cinnamomum
1000	subtropical	Schima, Castanopsis, Lithocarpus, Pinus roxburghii
2000	warm-temperate	Quercus, Castanopsis, Acer, Machilus, Litsea
2500	cool-temperate	Acer, Magnolia, Sorbus, Tsuga, Pinus excelsa
3000	cold-temperate	Abies spectabilis, Juniperus recurva, J. indica, J. squamata, Rhododendron
4000	subarctic	Rhododendron Juniperus
5000	arctic	Rhododendron nivale, alpine meadow

〔植物ニュース〕92. ハイハマボス Samolus parviflorus Rafin.

これまでに県内では、関田山脈(桂池、黒倉山、茶屋池)の記録(横内1983)のみであったが、昨秋、戸隠高原の池畔で新たに見つかった。奥山(1972)の分布図には、北海道の南から日本海寄りに新潟県までと、とんで近畿地方と千葉県が記載され、新潟県(池上他1981)の調査では、弥彦山や佐渡地方に多い。国内では、1属1種(サクラソウ科)。別名ヤチハコベなど。(和田 清)

93. タカネソヨゴ Ilex pedunculosa Miq. var. senjoensis Hara

タカネソヨゴは、ソヨゴの変種で亜高山帯に生じ這っている。1951年に南アルプス仙丈岳(1900m)で林弥栄氏により発見された。県下では木曽・真弓峠(奥原弘人氏)、中房温泉(横内斎氏)、中央アルプス・経ヶ岳(名取陽氏・横内文人1982)の報告がある。今年下記のような新産地を知ったが、亜高山帯でなくても這っている型もある。

長野市旭山(700m, アカマツ林) 1985, 5, 3, 東筑・四賀村保福寺峠〜烏帽子岩の間(1400m, アカマツ林) 1985, 8, 16, 木曽郡檜川村賢川(950m, アカマツ林) 1985, 9, 15。(横内文人)

で再会しお互いの無事を喜んだ。そしてティンブーまでの帰路の調査を行った。ティンブーに戻ってきたのは11月下旬であったが、もう落葉が舞う季節であった。そして帰路はブータンから車でインドへ入り、バグドグラ空港からカルカッタへと帰ってきたが、さすがインドは熱帯の熱さであった。

植生のあらまし

ブータンの植生は、今回大沢氏によって予報的にまとめられた(表1)。標高150~1000mは熱帯林、1000~2000mはヒメツバキ、クリガシ林など、2000~2500mはカシ林など、2500~3000mはツガ、カエデ林など、3000~4000mはモミ、ビャクシン林など、4000~5000mはシャクナゲ、ビャクシン林、5000m以上は矮生シャクナゲ群落、高山草原ということである。従って照葉樹林帯は標高2500m以下に発達していることになる。これらの自然植生は現在かなり残存しており、ヒマラヤにおける環境保全や貴重な植生として保護されるべきであるが、そのためにはブータン国の発展にさらに諸外国の援助や示唆が必要となろう。我われの調査が少しでも役立てば幸いである。

〔新刊紹介〕横内 斎著作集1「草木漫筆」 銀河書房 1985年10月刊、定価2,300円。

この書のカバーに、その生涯を植物研究一筋に捧げ、学界に不動の地位を築いた、故・横内 斎氏が、大正・昭和に亘る大自然の魅力を、味わい深い筆致で綴ったロマン紀行、と書かれてある。周知のごとく、今は亡き横内 斎先生は信州の植物学の大先達であり、その業績は高く評価されている。1983年に出版された「信濃植物誌」は、その研究の集大成である。しかし一方では大変な文筆家で、生前いろいろなところに寄稿され、その量はおびただしいと聞いている。先に「山野巡歴」で、先生の長年にわたる植物研究の足どりを楽しく、また興奮して読ませて頂いたが、単に先生の植物に対する学識だけでなく、植物や自然に対する深い愛情、優れた散文家としての文章が、大変私をひきつけたのである。今は見ることも出来ないと思われていた数々の名文が、このたび御家族の熱心な努力によって、ここに一冊の書にまとめられた。かつての信州の植物研究は、たいへん大らかでありながら、またその意気込みは凄まじい。「草木漫筆」の題名どおり、楽しく、気軽に読めるけれど、また私たちを叱咤激励しているようである。(土田勝義)